

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,18 2016年 春号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い⑱ 「水の猛禽ミサゴの雑学」

「里山の猛禽サシバの舞う庄内地方 Vol,1」

『標識の付いたオオジュリン（2016年3月）』酒田市最上川河川敷にて

水辺の猛禽ミサゴの雑学

「波越えぬ 契りありてや みさごの巢」江戸時代に俳聖松尾芭蕉とともに旅をした弟子の河合曾良が、秋田県の象潟（現在のかほ市）を訪れた際に詠んだ句です。芭蕉と曾良が訪れた当時の象潟は現在の景観とは違い、象潟地震による鳥海山の噴火と隆起の前で、多くの小島が点在する潟湖でした。その中の小島に波しぶきのかかりそうになりながらもミサゴ夫婦が営巣しており、災難が降りかかりそうであっても、何か約束事がある別れずに暮らしているのだろうか、ミサゴ夫婦の仲の良さを詠んだ句なのだそうです。ミサゴは食性の90%が魚類で占める、魚食専門のタカで、面白い生態を持っています。豊かな水辺の王様「ミサゴ」を様々な角度から知れば、あなたもミサゴのトリコになる？

和名 ミサゴ
学名 *Pandion*
英名 Osprey
翼開長 150~170cm



アイマスクと長い翼は
猛禽界のヒーロー！

航空機にもミサゴが？
オスプレイはミサゴの英名！

普通鳥類の足といえば、前に3本、後ろに1本の指の配置ですが、ミサゴはご覧の通り前に2本、後ろに2本の配置です。これは「対趾足」と呼ばれる脚の構造で、魚類を主に捕えるミサゴは、前後にバランスよく配置した方が、滑って掴みにくい魚をとらえるのに都合が良いのです。

ミサゴは何種類いる？

江戸～明治時代、庄内藩士松森胤保が標した「両羽博物図譜」には、当時ミサゴと呼ばれる鳥がもう1種類いたことが記されています。それが現代の和名でいう「コアジサシ」。「ミサゴ」の語源が「水を探る」から来ていることが解りますね。



昔は「小ミサゴ」と呼ばれていた「コアジサシ」(上)とミサゴ(左)「両羽博物図譜」より酒田市光丘文庫所蔵



(左) コアジサシ
ミサゴは狩りの際、魚を捕まえやすい脚(対趾足)で捕まえますが、コアジサシはクチバシで魚を捕えます。
撮影：長船裕紀氏

寿司の起源はミサゴ？

大人も子供も大好きなお寿司は、日本が世界に誇る日本食の代表格ですが、そのルーツはミサゴにあるとはどういうことでしょうか？

一部の動物には「貯食」といって、エサを保存して後で食べる習性があるものがありますが、昔ミサゴも「貯食」をされると考えられていたのだとか。ミサゴの食料といえば主に魚類ですが、ミサゴが保存した魚が発酵し、偶然それを人が食べたらとてもおいしかったので「ミサゴ寿司」と呼ばれ、お寿司の起源になったと言い伝えられています。「天皇の料理番」で知られる秋山徳蔵も著書「味」のなかで紹介していますし、庄内藩士松森胤保も両羽博物図譜のミサゴの項で、現在の新潟県村上市あたりに住んでいる人からミサゴ寿司の話聞いたと記述しています(腐りやすい魚類を貯食することに疑問を呈している)。現在ではミサゴが貯食をする習性が無いことが解っているのですが、お寿司のルーツがミサゴからという先人のユニークな発想が、日本特有の食文化を作ったと考えると、和食を世界無形文化遺産に登録したユネスコもびっくりかもしれませんね。



参考文献「すし物語」宮尾しげを「味」秋山徳蔵

※海や川の水質汚濁は、ミサゴのエサが捕れなくなる原因になります！みらいにきれいな川と海を残していきましょう！

庄内の動物情報コーナー

例年に比べ気温が高めで経過した今シーズンの庄内。はっきり言って異常な季節と言っても良かったかもしれません。ここ最近のあいさつ文が1年ほどこんな調子で書いておりますので、本当に日本の四季はどうかしてしまってきている気がします。そのうち雨季と乾季に分かれるとか！？生物相の変化に気が付くためにもぜひ自然観察をしてください。何か変と思ったら投稿を！



2015/12/12「ノスリ」酒田市
看板に止まる猛禽類。この看板に「猛禽類保護センター」との記載がありませんが、自らが止まることで道を示してくれているようです。ありがとうございます。撮影：齋藤利孝様



2016/1月上旬「オジロワシ」秋田県
きりっとした表情。くちばしの鋭さ！尾羽が雪に見えて発見するのが難しいんですよ～。やっぱり見つけるポイントは黄色いくちばしかな！
撮影：後藤勇様



2016/1/17「コチョウゲンボウ」秋田県
冬にやってくる大型の猛禽類におされ、なかなか名前が挙がって来ないハヤブサの仲間。ほら意外とあなたの近くにもいるかもしれませんよ。
撮影：後藤勇様



2016/1/30「スズメ」酒田市
スズメの正面の顔ってこんな顔！ニューナイスズメというほっぺに黒い模様が無いものもいますが、あると無いでは印象が違って見えます。
撮影：ナッシュくん



2016/2/7「ナマズ、ウ、オオワシ」鶴岡市
ナマズを捕まえたウ。それを横取りしようとするオオワシ。川底の生物であるナマズはこうでもしないと食べる機会がないかもしれませんから！
撮影：佐々木真一様



2016/3/6「ミヤマガラスとコクマルガラス」酒田市
パンダのようなコクマルガラス。カラスのすべてがこのカラスだったらもしかすると、今とはちょっと扱いが違っていたかな？撮影：佐々木真一様



2016/3/13「ハジロカイツブリ」酒田市
夏羽に換羽しているところ。鳥たちにとってはもう冬じゃないということでしょうか。あ～寒っ！
撮影：佐々木真一様



2016/3/13「マガモ×カルガモ」鶴岡市
トモエガモがいると思ったのですが、何かが違う雰囲気。よく見るとハーフでした。一見二鳥。本当にトモエガモにも見えちゃうかも。
撮影：なおちゃん



2016/3/23「シベリアハヤブサ」酒田市
体格の良さ、はっきりと濃いハヤブサヒゲ、太い体の横縞。いつものハヤブサとちょっと違う。気づきました？
撮影：阿部治雄様



2016/3/28「オオミスシウ」酒田市
山形県の桜もようやく開花宣言したところですが、里山では様々な植物たちがすでに開花しています。ひっそりと可憐な足元の花たちにも注目してみましょう。撮影：齋藤利孝様



2016/1/31 番外編「オオタカ」神奈川県
やけに淡い色のオオタカ。幼鳥？見事に枯れた藪の背景色に溶け込んでます。撮影：こまたん金子様



2016/3/23 番外編「ヒオドシチョウ」東京都
風は冷たいけれど日差しが暖かくて越冬していた成虫が目覚めたようです。冬将軍と戦って、生き延びたまさしく「緋緘(ひおどし)の鎧武者」です。撮影：本間憲一

突撃！鳥海イヌワシみらい館②

お鷹ぽっぽの里
山形県米沢市

笹野一刀彫 ～鷹山～



本間) 以下(本) 一面白い響きですが、「お鷹ぽっぽ」とは何ですか？

寒風) 以下(寒) 「ぽっぽ」とはアイヌ語でおもちやの意味です。アイヌ人の祖先は昔本州にも住んでいたという研究があります。北上する過程でこの地にアイヌ語が土着したのではないかと考えられています。

本) 昔から鷹の形を作っていたのですか？

寒) 笹野一刀彫の起源は、「笹野花」がはじまりです。米沢は雪深い土地柄、生花を仏壇にお供えすることが難しかったので、昔は一刀彫で「花」を彫ってお供えしていたのです。今でこそ年中生花が手に入りますが、雪国で暮らす人々の知恵が笹野一刀彫の原点です。



笹野花



「サルキリ」左が現在使われているもの。江戸時代のサルキリは丸みがあった。

本) どうして「一刀彫」と言うのですか？

寒) 彫刻は部位によって刃物を使い分けますが、一刀彫は同じ刃物1本だけで作ります。ここ笹野地区では「サルキリ」という特殊な刃物を使って作っています。この刃物はここですしか使われていない特殊なものです。昔に比べるとこのサルキリも少し形が変化しています。



上杉鷹山公像(上杉神社)



昔のお鷹ぽっぽ(後ろ姿) 後頭部に目が描いてある。

本) 現在のタカの形はいつごろから作られたのですか？

寒) 江戸時代の名君、上杉鷹山公が米沢藩主になってからです。鷹山公は自らにも「鷹」という名前が入っていることと、

「禄高が上がる」という語呂合わせから家の守り神、商売繁盛のお守りとして飾ることを勧めました。最初は武士だけが製造していたのですが、鷹山公は農閑期の副業として農民にも制作するように奨励しました。当時のお鷹ぽっぽも残されており、驚くことに目が後頭部に付いています。これには魔除けの意味に加え鷹山公の「タカは見ているのだぞ！」という訓示の意味も込められているのだと思います。

本) 実際にタカは視力がよく”見ている”という意味では現実にも近いものがありますね。今のような力強いタカのデザインになったのはいつからですか？



黒タカ(左)と赤タカ(右)

寒) 最も知られる「黒タカ」は実は50年ほど前に商標登録の際に申請したのがきっかけで、笹野彫組合で話し合って考案したものです。カラフルな「赤タカ」と呼ばれる方が新鮮に感じる人もいますが、歴史としては実は赤タカが元祖です。

本) 素材は何を使っていますか？

寒) 鷹山公の時代は木材にサワグルミなど様々な樹種が使われていました。現在は「コシアブラ」と「エンジュ」を使います。

本) 難しい部分や気を付けている場所がありますか？

寒) くちばしの削りだしと羽の反り具合ですね。あとは自分がケガしないこと(笑)

本) お店に並んでいる一刀彫を見ますと実に様々な種類、形がありますが何種類くらいあるのですか？

寒) 鷹山公はお鷹ぽっぽを奨励した際に12種の鳥を作ることを勧めました。「鷹」は「禄高(給料)が上がる」「セキレイ」は「子孫繁栄」、「ニワトリ」は「早起きは千両に値する」、「フクロウ」は「福を呼ぶ」など、それぞれに意味があります。私が作る形は、現在ではその年の干支など60種類ほどあります。職人さんの中には一種類しか作らない人もいます。国内ではやはりタカが一番人気です。民芸品展等で海外にいくとフクロウがとても人気ですね。

本) フクロウは、しっかりと前に2本の爪が描かれていて、昔の人が当時からその特徴をよく見ていたことがわかりますね。タカもシンプルな形状に力強い特徴がよく出ていると思います。寒風さんのように描くためのポイントはどんなところですか？

寒) 私は自由主義なので鷹を描くコツは特に絵付け体験者に伝えてはいませんが、製品とするうえではやはり目と爪は大切なポイントだと思いますね。大人は人に見せるようなこともあろうかと伝統の図案で絵付けしていく人が多いですね。子供たちは割と自由です。



長) 船一以下(長) 絵付けで使っている塗料は特殊なものですか？

寒) 昔はこけしと同じ木染めの染料も使っていましたが、色あせするので現在では発色の良いポスターカラーを使っています。墨も使います。

長) 切手の図案にもなりましたよね？

寒) 1969年と2001年に切手図案にも使われ、一刀彫ブームになりました。

本) お鷹ぼっぼを作る職人さんは現在何人くらいですか？

寒) 現在は笹野彫組合に加盟している職人は15人ほどで、そのうち現在も活動している職人は6~7人ほどです。



長) 材料となる樹木はいつごろ収穫しますか？

寒) 材料は毎年秋に収穫し、乾燥させてから使います。最近では木材屋から買うようになっていますが、近年主原料のコシアブラを山菜として食べる人が増えてきたため、素材として適さないものが多くなりました。若い芽を摘むとその周辺が黒くなったり節が多くなります。こうしたことが理由で10年ほど前から材料の調達が非常に困難になってきている状況ですが、最近ではあえて節がついてるものも制作するようにしました。これまで節のある木は捨てていたのですが、あえてこの節に樹皮を残して使うことによって捨てる部分が少なくなりました。また天然の素材ですので、例えば曲がった木であればその曲がった方向にタカの顔を向

けたりして、これまでは適さなかった木も捨てずに素材自体の特徴を生かして作るようにしています。白いコシアブラ以外を使ったり、他の形を作ることについては反発も大きかったです。しかし、職人が食えなければ、鷹山公から伝わってきた長い伝統は消えてしまいます。我々には笹野一刀彫を後世に伝える使命もあります。



本) なるほど。ではそんな天然素材を使用している寒風さんですが、最近の環境が以前と比べて変化してきていると感じることはありますか？

寒) 山の状況が変化してきていると思います。一番は手入れがされなくなって荒れてきていること。薪を作らなくなったことで枝打ちがされなくなりました。弱いコシアブラが成長できる森が少ないです。また杉も植えすぎたと思っています。野生動物も林内に入ると見ることが少なくなったと感じますね。やはり山は30年50年ごとにある程度切って新しい木が出てくるように管理すべきだと思います。炭焼きの時代がよかったと思いますね。また米沢では白猿が市の天然記念物にもなっていますが、サルによるコシアブラの若芽の食害が増えました。最近では猟師が減ったため、鉄砲でなくロケット花火による追い出しが行われていますが、翌日にはまた人里に戻ってくる有様です。

本) これから来場される方々に一言お願いします。

寒) 米沢の礎を築いた上杉鷹山公のことも知っていただきたいですし、何よりも楽しい思い出を作っていただければと思います。

私たちの先祖はタカに憧れと畏怖の念を抱きつつ「祟りがある」など非科学的であっても結果としてタカたちの住む環境を守ってきたのかもしれませんが。そしてそれをお鷹ぼっぼなどの民芸品として形に残し、その生命力と力強さに願いを込めてきたのではないかと感じました。テクノロジーが進歩し、私たちは「自然」に向き合うことから遠ざかり、そうした感情を失ってしまったのかもしれませんが。あたたかい置賜なまりで気さくに話す寒風さんと話すうち、猛禽類とともに伝統文化も続いていく環境を残さなければならないと思いました。



元祖一刀彫の家
「鷹山」
六代目 戸田寒風
山形県米沢市
笹野本町6798
TEL 0238-38-3200

里山の猛禽・サシバの舞う庄内地方 Vol.1

1 サシバって少ないの？



夏鳥として繁殖期に渡ってくるサシバ *Butastur indicus* は、猛禽類保護センターの位置する庄内地方でも見ることができます。しかし、サシバは近年個体数が減りつつあり、宮古島での通過飛

来数のカウント調査によると、1990年代までの20年ほどの間に40,000羽から20,000羽まで減少したことが示されています（宮古島野鳥の会・沖縄県自然保護課）。環境省レッドリスト(2012)では絶滅危惧II類に、また庄内地方の場合、つまり山形県レッドリスト(2016)では絶滅危惧IB類に位置づけられています。山形県みどり自然課は「山間地域の休耕田の増加等に伴う環境変化により、主要な餌となる両生類や昆虫類等の生息地が減少してきており、成熟個体数が250羽未満である」と報告しています。

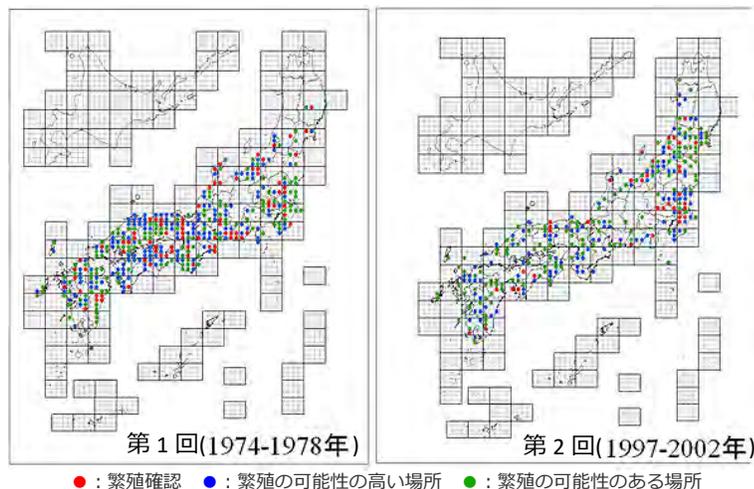


図1) 第1回調査と第2回調査の結果(繁殖分布図)

引用：環境省 鳥類繁殖分布調査(2004)の図改編(バードリサーチホームページより)

環境省が実施した全国繁殖鳥類分布調査では、第1回調査(1974-1978年)と第2回調査(1997-2002年)の結果から、繁殖が確認されたメッシュの数が約20年の間に81メッシュから38メッシュに減少し、実に減少率-0.53という結果となっています。

2 どんな環境にやってくる？

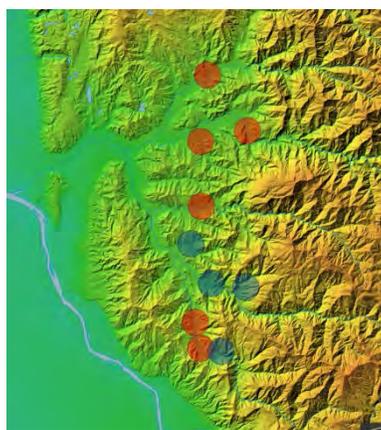


図3) 庄内地方のサシバ高密度生息地
(国土地理院の色別標高図(ベース図)を元に作成)

日本において、サシバが繁殖する場所の多くが丘陵地や山地で、水田が細長くのびた谷あいの地形を好みます。こういった地形は谷戸や谷津田と呼ばれ、日本の里山の象徴的な環境です。庄内地方では平野部を取り囲む出羽丘陵沿いや平野部の南部(鶴岡市)に点在しています。

保護の観点から具体的な位置は示せませんが、鶴岡市、三川町、庄内町を除く庄内地域の酒田市と遊佐町の1市1町において、過去3年シーズンの調査から19つがいを確認しています(図2)。なお、赤丸が繁殖確認、黄丸が繁殖推定(つがいの飛翔のみ)を確認した場所です(確認できそうな場所の未調査地域も多いので、この限りではない)。図3はサシバの繁殖(行動)が確認されている高密度地域を、色別標高図に円(直径は1km)で示したもので、概ねサシバの繁殖地は地形からも入り込んだ地形であることがうかがえます。巣間距離は近いつがいで1km未満で、全国有数の高密度地域ほどではありませんが、谷津田ごとに確認されており、庄内地域にもサシバの好適環境が残されていると推察されます。次号に続く(文・写真 長船裕紀)

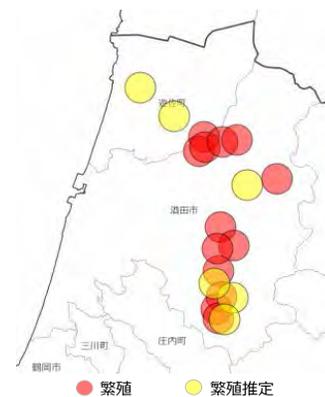


図2) 庄内北部のサシバの繁殖分布

イベント開催報告

○猛禽類観察会「冬のワシタカ探し」開催しました！

2月6日(土)、猛禽類観察会「冬のワシタカ探し」を開催しました。会場は酒田市のお隣、鶴岡市大山のラムサール条約登録湿地「下池」です。鳥獣保護区管理員の宮川道雄さんを講師に迎え、この時期に飛来するオオワシ、オジロワシの他、カモやハクチョウ類を観察しようというものです。

この日は悪天候で、寒さに加え降雪量も多く、視界が奥の方まで取れなかったのですが、風がなかったのがせめてもの救いで、開始から降雪で視界がかすむ中、オジロワシが木に止まっているところを観察することができました。



今回は講師の宮川さんが、普段管理員の仕事として行っているカウントを参加者にも体験してもらおうという事で、実際にハクチョウをカウントしてもらいました。答えになるカウントは、当館の長船自然保護専門員にしてもらうことにしました。講師の宮川さんはこのカウントを1種ごとに行っているわけで、その大変さを体験していただきました。観察会の内容ではラムサール条約がどういうものなのか、条約が掲げる「ワイズユース」の概念も勉強してみました。バード



ウォッチングをする人も増えていることは当館としても大変喜ばしいことではあるのですが、その中にはマナーの悪い観察者も含まれているようで、各地の探鳥地で問題となっています。講師の宮川さんによると、ここ下池でも撮影のために対象の鳥を追い回したり、巣内雛の撮影を試みたりと、下手をすると繁殖に影響のある行為も最近は起きているとのことでした。マナーを守って、自然にも人にも優しく利用していただきたいですね。この日は28種類の鳥を見ることができました。講師の宮川さん参加していただいた皆さん、ありがとうございました。



イベント情報コーナー①

猛禽類観察会 「里山の猛禽 サシバ」

いよいよ今年もサシバの繁殖シーズンが到来です！繁殖のためにわざわざ遠いところを日本までやってくるサシバ。要注目種サシバの生態と保護の重要性を観察会を通して知ってみませんか？

期 日 平成28年4月17日(日)
時 間 8:30~12:00
場 所 酒田市
定 員 先着15名
参加費 一人300円(保険代・資料代)
講 師 長船裕紀(自然保護専門員)
持ち物 双眼鏡(貸出可)、飲み物、マイコップ

お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681 (鳥海イヌワシみらい館)
E-mail: moukin@raptor-c.com
締切 4月14日(木) 17:00まで



イベント情報コーナー②

○ジオパーク登録祈念 特別企画展示 「水の猛禽 ミサゴ」

身近に生息していながら、あまり知られていない「ミサゴ」に生態面と文化面双方から迫ります。特別な身体的特徴を持ち、日本文化とも深いつながりがあるようです。この展示から猛禽類ミサゴを知ってみませんか？

期 日 平成28年4月23日（土）～5月31日（火）
 時 間 9：00～16：30
 場 所 鳥海イヌワシみらい館展示室
 入館料 無料
 協 力 酒田市光丘文庫 にかほ市象潟郷土資料館
 お問合せ TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）
 E-mail: moukin@raptor-c.com



展示関連イベント

「お鷹ぼっぼの絵付け」
 平成28年5月3日（火）～5日（木）
 場 所 鳥海イヌワシみらい館特設会場
 時 間 9：00～16：30
 参加費 500円（材料費）
 申し込 不要（直接会場にお越しください）
 問合せ TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）

○猛禽類観察会「春の渡りを見よう！」

繁殖のためにはるばる海外からやってくる猛禽類がいます。みんなでハチクマやサシバを観察しながら渡りのメカニズムを学んでみませんか？

期 日 平成28年5月22日（日）
 時 間 9：00～15：00
 場 所 酒田市
 定 員 先着15名
 参加費 一人300円（保険代・資料代）
 講 師 伊藤智樹氏（猛禽類保護ネットワーク）
 持ち物 双眼鏡（貸出可）、昼食、マイカップ、筆記用具
 募集期間 5月1日（日）～5月19日（木）午後5時まで
 お申込み・お問合せ TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）
 E-mail: moukin@raptor-c.com



「にほんのイヌワシ改訂版」が完成しました！

かねてより制作にあたっておりましたパンフレット「にほんのイヌワシ改訂版」が完成となりました。全32ページの増補改訂版となっております。制作にあたって協力いただきました皆様、ありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。なおこのパンフレットは増刷のための協力金として1冊300円で頒布しております。当館へ来場の際にお求めになってみてください。



Illustrated by Masami Tsuno
 ©鳥海イヌワシみらい館

編集後記&施設情報

鳥海イヌワシみらい館 4月～6月の開館情報

開館時間・・・9：00～16：30
 入館料・・・無料
 休館日・・・無し

臨時休館日はホームページにてお知らせします。
 ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

猛禽類保護センター

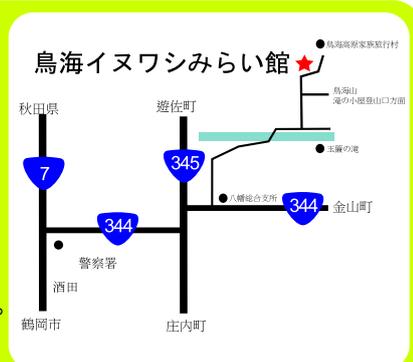
〒999-8207
 山形県酒田市草津湯ノ台71-1
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
 E-mail: moukin@raptor-c.com

普及啓発担当
 今年度は！な！な！なんと！すごいことが！起きそう！予感が！する！（本）

事務局
 春の訪れとともに観察会のシーズン到来！自然景観に癒される～。（村）

自然保護専門員
 イノシシが食べたい！来シーズンまで我慢。とりあえずタラの芽を採りに行くか・・・（長）

鳥海南麓自然保護官
 にほんのイヌワシよろしくおねがいします。（鎌）



鳥海イヌワシみらい館通信
 Vol.18 春号

発行：猛禽類保護センター活用協議会
 （事務局 鳥海イヌワシみらい館内）